

新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出制限がモスクワで導入され2ヶ月以上が経過した。6月に入り新規感染者が減少し始め、そろそろ制限が解除されるのではと思っていたところ、6月8日にソビヤニン・モスクワ市長が翌日6月9日から外出制限措置を解除するとともに、電子通行証を廃止すると発表した。自宅「軟禁」生活からついに解放されることになったのである。もっとも、公共交通機関や市内のスーパー等では、マスクや手袋の着用が依然として推奨されている。

振り返ってみると、新型コロナウイルスの影響で仕事はテレワーク体制に移行し、カフェやレストラン等が休業状態だったので外出する機会は急激に減り、自宅の中で過ごす日々が続いた。食品や日用品等は近所のスーパーの他、インターネットでも購入できたので普通の生活で困ることはあまりなかった。とは言え、2ヶ月以上に及ぶ自宅「軟禁」生活が続いたおかげで若干ストレスを感じていた。そうした中、外出制限が解除されて自由に散歩できるようになり、また6月下旬からはカフェやレストラン等の営業が再開されたので、早速知人と外食することにした。あるレストランでは入口で除菌ハンドスプレーでの消毒や検温で感染対策を施し、店員はマスクと手袋を着用し接客していた。少しずつではあるが、以前の活気を取り戻しつつあるように感じた。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大によりモスクワ市内のアパートの家賃が下がると聞き、せっかくなので新しい住居を探すことにした。インターネットで検索してみると、立地や間取りが理想的で普段であれば手の届かない物件も、コロナの影響で家賃が思いのほか下がっており、この際なので引っ越しを決意した。複数の物件を見て回り、最終的にはモスクワの南部に位置するアパートを借りることにした。幸い、外出制限が解除され、電子通行証も不要なので引っ越しは問題なくできた。意外にもコロナのおかげで良い物件に巡り合えたわけだ。

7月に入り感染者が全国的に減少傾向にあるとはいえ、それでもモスクワ市では約650人の新規感染者が確認されている。また、第二波の可能性も危惧されており、今後どうなるのか分からないが、とりあえず感染予防のためにマスクを着用して外出する他、こまめに手を洗うことを心掛けている。なお、制限が緩和され外出する機会が増えたのは幸いだが、モスクワの夏は非常に暑くマスクを着けると息苦しい。鼻を出してマスクを着けることも考えたが、やはり健康が一番なので、外出の際には正しくマスクを着けるようにしている。新型コロナウイルスが一日でも早く落ち着くことを願っている。（北海道大学）